

## 一般社団法人コミュニティシネマセンター 2021年度(令和3年度)事業計画

### 1. 受託事業

#### [1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2021

(文化庁 令和3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。シンポジウム(全国コミュニティシネマ会議)、上映者のためのワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進める。

##### (1) 全国コミュニティシネマ会議2021

2021年11月12日[金]、13日[土]を予定

会場：アイーナいわて県民情報交流センターほか(岩手県盛岡市)

R3年度の全国コミュニティシネマ会議は、東日本大震災から10年を経た東北・盛岡市で開催する。

「映画の力」をテーマに、この10年間、震災と津波の甚大な被害から立ち上がってきた被災地で行われてきた上映活動を振り返る。

また、コロナ禍の中で立ち上がった様々なプロジェクトや新しい活動、事業を振り返り、コロナ後の映画館・コミュニティシネマあり方、その活動を支える制度を考える。

コロナの状況を勘案しながら、海外からは北米からゲストを迎えることを検討する。

分科会(ワークショップ)も実施する。(3分科会を予定)

分科会例

- ・オンライン・配信を使った事業
- ・配給会社とコミュニティシネマ
- ・自主上映とコミュニティシネマ
- ・子どもと映画プログラム

##### (2) ディスカッション&ワークショップ

###### ー映画館・上映者のための法と制度講座

実施期間：2021年夏～(複数回を予定) / 実施会場：東京(オンライン)

労働環境やハラスメント、あるいは文化芸術振興に関わる法律や制度等、映画館やシネマテーク等上映者に関わる法律や制度を学ぶための講座。

###### ーデジタルシネマワークショップ

実施期間：2021年6月 実施会場：東京(オンライン)

デジタルシネマ機の導入から10年近くを経過し、映画館では機器の寿命やアップグレード等、今後の動向が大きな関心事となっている。このワークショップでは、上映者が抱える「デジタルシネマ」に関わる様々な疑問や課題について話し合い、情報共有のためのネットワークをつくるとともに、この状況を乗り切る手立てを探る。

###### ーアートマネジメントワークショップ イン 東北

実施期間：2021年秋以降 実施会場：岩手県(一戸町、釜石市)、福島県(南相馬市)などを予定

東日本大震災から10年、岩手県の沿岸地域では本事業により、各地に上映の場が生まれ、上映者も育ちつつある。この成果を沿岸部以外の地域にも拡大し、映画館のない地域での上映者の育成、ネットワークの

構築を進める。この事業を通して、東北の上映者同士の交流・情報交換の機会をつくる。

### (3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

#### ー「こども（若年層）と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、こども（中高校生を含む）を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行う。

##### ① 「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法（こども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々）を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングや実施会場相互の見学等を定期的に行い、ゆるやかなネットワークをつくる。

特に、今年度は「夏休みの映画館」のためのワークシート（鑑賞ノート）の作成を行う。

##### ② 子ども映画館（上映会）の実施

5～6会場（映画館・シネマテーク・自主上映会）で、（1会場）年間3回以上子ども向け上映会を実施。定期的に子ども向け上映を行うことを促し、支援する。

##### ② 上映作品リストの作成

子ども向け上映会のための作品・プログラムリストを策定する。

#### ーミニシアター・ネットワーク事業の開拓

実施期間：2021年秋～冬(予定) 実施地域：神奈川と関西の映画館ほか

複数のミニシアターが連携して、地域の市民・観客が参加できる地域交流・上映企画など、新しい映画館の魅力を発信する事業を開拓・実施する。

#### ー若手監督作品上映推進プロジェクト

実施期間：2021年夏～春(予定) 実施地域：全国10会場程度を予定

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者旅費を負担する。

### (4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。2021年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施する。

#### ーFシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営

#### ーフィルム上映会の実践

実施期間：2021年11月 実施地域：盛岡(予定)

映写技師の育成とフィルム文化の魅力と重要性を広く一般に伝えるために、全国コミュニティシネマ会議に合わせてイベント型のフィルム上映会を開催。合わせて映写技師の実習型ワークショップ（ワークショップは原則会員限定）を行う。

## [2] 「映画上映活動年鑑2021」の作成

(文化庁 令和3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

映画の「上映」は、「興行」という商業行為であると同時に文化事業、公共事業でもある。

本年鑑では、幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、「興行」(及び配給)に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに映画祭や公共上映等の新しい調査データを加え、さらに地域・都道府県別に詳細な上映環境に関するデータを付して、現在の映画上映の状況を提示し、分析する。

文化事業、コミュニティ事業という視点から上映の状況を提示し、分析することにより、国あるいは地方自治体の、上映活動に対する関心を高め、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指している。

### 「映画上映活動年鑑2021」内容(予定)

#### I 映画館での上映

##### (1) 全国興行概要

全国映画興行概況(都道府県別)

人口/映画館数/スクリーン数/スクリーン当たり人口/年間観客数/

スクリーン当たり入場者数/一人当たり年間鑑賞回数

スクリーン数の推移(1993～2021) 観客数の推移(2012～2021) 映画館数の推移(2012～2021)

種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化(2012～2021)

地方別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化(2012/2021)

全国映画館地図(種類別)(2012/2021)

##### (2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2012～2021) 1作品あたりの観客数(2012～2021)

公開作品の上映館数[公開規模] 興行収入の推移(2012～2021)

2021年に映画館で公開された作品の公開規模 2021年に映画館で公開された映画の分類

2021年興行収入10億円以上作品[日本映画][外国映画]

興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画

##### (3) 諸外国との比較 北米・イギリス・フランス・韓国等とのデータの比較

[観客数][年間鑑賞本数][スクリーン数][1スクリーン当たりの人口][1スクリーン当たりの観客数]

[入場料金・興行収入][シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数/映画館数][公開本数]

##### (4) 都道府県別データ

都道府県別概況 都道府県別スクリーン数の推移(2012～2021)

都道府県別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化

#### II 公共上映

(1) 映画祭 全国映画祭リスト

(2) 公共ホール 映画を定期的上映している公共施設リスト

(3) 公共の映画専門施設 公共の映画専門施設(アーカイブ、シネマテーク)リスト

(4) 地域の主要な自主上映団体一覧(予定)

#### III 特別調査

以下のテーマを検討中。

・映画館以外での上映活動調査 ・コロナ後の上映活動 ・子どもと映画プログラム(夏休みの映画館レポートほか)

#### IV 世界の映画上映事情 現地調査

新型コロナウイルスの状況がどのように変化するかを見ながら、実施を検討。(北米を予定)

#### V 資料

(1) 都道府県別(映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭) 地域別映画地図

(2) 全国コミュニティシネマ会議採録

(2) 上映に関わる用語集

## 2. 自主事業

### [1] 「SAVE the CINEMA!」事業

#### (1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行う。

また、2020年度に続き、今年度も関連の講座（映画館・上映者のための法と制度講座）を実施する予定。

#### (2) アートハウスプレスの運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウスプレス）芸術映画館通信」を運営する。

オンラインイベント実施マニュアルの制作・提供を行う。

#### (3) 会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討する。

#### コミュニティシネマセンターウェブサイトの運営

#### ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

#### デジタルシステムの更新・導入のための公的支援に関する情報提供・情報共有

### [2] こどもと映画 プログラム

#### (1) 全国のミニシアター・コミュニティシネマが参加する「夏休みの映画館」の開催

（文化庁R2年度第3次補正予算「Arts for the Future」）

地域に暮らす子どもたち（小学生～高校生）に、地域の映画館を訪れてもらうための新しい取り組み。夏休み期間中の1週間、毎日1本（プログラム）子どもたちに見せたい、多様で魅力的な映画を上映。ライブ感あふれるサイレント映画の活弁・演奏付上映や、魅力的なゲストによるトークショー、体験型のワークショップなど、多彩なプログラムも合わせて実施する。

実施期間：2021年8月21日[土]～27日[金]

参加劇場：横浜シネマ・ジャック&ベティ、シネマテークたかさき、シネ・ヌーヴォ（大阪）、元町映画館（神戸）、DENKIKAN（熊本）、ガーデンズシネマ（鹿児島）、松本CINEMAセレクト（松本市波田文化センター） 7会場  
コミュニティシネマセンター（協力：SAVE the CINEMA）は、企画・コーディネート・SNSの運営等を担当

#### (2) 「スクリーンでみる日本アニメーション！」（国立映画アーカイブ共同事業）ほか、

#### 「こどもと映画」企画の全国巡回

巡回予定…シネマ四国（高知）、川崎市アートセンター、鎌倉市川喜多映画記念館ほか

- 新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション！」に続くプログラムを策定する。
- 「子ども（若年層）と映画」プログラムとの連動
- ウェブサイト「こども映画館」の運営・更新
- 「夏休みの映画館」のためのワークシート（鑑賞ノート）の制作

### [3] 映画の巡回/特集上映会の開催

#### (1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.3 の巡回

アンステイチュ・フランセが、フランスの映画メディア（新聞、雑誌、テレビ局、ウェブ媒体等）、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画を選びすぐり、紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在をめぐって～」。コミュニティシネマセンターでは、vol.3（セレクション担当・「カイエ・デュ・シネマ」マルコ・ウザル氏）で上映された作品の中から10作品程度を選び、全国に巡回する。  
巡回作品候補：

『ルーベ、嘆きの光』(アルノー・デプレシャン、2019年)  
 『バーニング・ゴースト』(監督:ステファン・パチュ、2019年)  
 『涙の塩』(監督:フィリップ・ガレル、2020年)  
 『思春期 彼女たちの選択』(監督:セバスチャン・リフシツ、2020年)  
 『8月のエバ』(監督:ホナス・トルエバ、2020年)  
 ■ソフィー・ルトウルヌール特集  
 『セックス・アンド・ザ・フェスティバル』(2013年) 『奥様は妊娠中』(2020年)  
 ■エマニュエル・ムレ特集  
 『カプリス』(2015年) 『言葉と行動(ラヴ・アフエアズ)』(監督:エマニュエル・ムレ、2020年)  
 ■ジャン＝フランソワ・ステヴナン特集  
 監督作品 『防寒帽』(1978年) 『男子ダブルス』(1986年) 『ミシュカ』(2002年)※  
 出演作品 『走り来る男』パトリシア・マズィ(1988年)  
 ■セルジュ・ダナーを巡って  
 『現代の映画作家シリーズ ジャック・リヴェット 夜警』クレール・ドウニ(1990年)  
 『パリはわれらのもの』ジャック・リヴェット(1958年)  
 巡回予定:広島市映像文化ライブラリー、横浜シネマジャック&ベティ 他。

## (2) ジョージア映画祭2022

日本とジョージアの国交成立30周年の記念の年である2022年、ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集め、デジタルリマスター版で一挙上映する「ジョージア [グルジア] 映画祭・コーカサスの風」が開催される。コミュニティシネマセンターでは、この映画祭を、東京での開催終了後に全国に巡回する。

[主催] ジョージア映画祭2022実行委員会 企画:はらだたけひで

[共催] 一般社団法人コミュニティシネマセンター

東京開催期間:2022年1月29日~2月25日(予定) 東京会場:岩波ホール

巡回候補作品

### ■シェンゲラヤ家の栄光

「エリソ」(ニコロズ・シェンゲラヤ監督/1928)

「白いキャラバン」(エルダル・シェンゲラヤ+タマズ・メリアヴァ共同監督/1963)

「青い山——本当らしくない本当の話」(エルダル・シェンゲラヤ監督/1983)

「アラヴェルディの祭り」(ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1962)

### ■画家ニコ・ピロスマニ特集

「放浪の画家ピロスマニ」(デジタルリマスター新版/ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1969)

「ピロスマニのアラベスク」(セルゲイ・パラジャーノフ監督/1985)

### ■よみがえった歴史的名作

「ハバルダ」(ミヘイル・チアウレリ監督/1931) 「失楽園」(ダヴィト・ロンデリ監督/1937) 「マグダナのロバ」(レゾ・チヘイゼ、テンギズ・アブラゼ共同監督/1955) 「ナイロンのクリスマスツリー」(レゾ・エサゼ監督/1985)

### ■オタル・イオセリアーニ監督作品

「落葉」(1966) 「歌うつぐみがありました」(1970) 「イオセリアーニ監督短篇特集」

### ■国民的映画「ケトとコテ」を極める

「ケトとコテ」(ヴァフタング・タブリアシュヴィリ+シャルヴァ・ゲデヴァニシュヴィリ共同監督/1948)

「喜びの家」(メラブ・ココチャシュヴィリ監督/2008) ジョージア初のミュージカル映画に捧げられたドキュメンタリー。

「“ケトとコテ”を求めて」(ダヴィト・グジャビゼ監督/2009) 「喜びの島」の製作過程を追ったドキュメンタリー。

### ■ミヘイル・コバヒゼ監督作品

「結婚式」(1964) 「傘」(1967) 「音楽家たち」(1969)

### ■ゴゴベリゼ家・女性監督の系譜 「金の糸」公開記念

「プバ」(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1930) 「ウジュムリ」(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1934)

「インタビュアー」(ラナ・ゴゴベリゼ監督/1977) 「幸福」(ヌツァ・アレクシメスヒシュヴィリ監督/2009)※特別上映

### ■テンギズ・アブラゼ監督「祈り 三部作」

「祈り」(1967) 「希望の樹」(1976) 「懺悔」(1984)

### ■第1回ジョージア映画祭アンコール

「私のお祖母さん」(コンスタンティネ・ミカベリゼ/1929) 「スヴァネティの塩」(ミヘイル・カラトジシュヴィリ/1930)

「大いなる緑の大地」(メラブ・ココチャシュヴィリ/1967) 「少女デドゥナ」(ダヴィト・ジャンネリゼ)

**(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など**

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行う。